

6月22日(月) 第13回口頭弁論がありました!

梅雨まっただ中の時期でしたが、今回も、各地から150人以上の方が傍聴のため集まりました。今回も、報告集会が早めに始まり、その後には、「準備書面集」発刊のお知らせとその説明もありました!

◆第13回口頭弁論の内容◆

今回の口頭弁論では、国側から「反論」が提出されました。国側はそこで、長々と多岐にわたる論点で、朝鮮学校の無償化除外がいかに間違っていないか主張してきました。

国側はこれまでも、「朝鮮学校で適正な学校運営がなされているか、“確証が得られなかった”，だから無償化対象校として指定しなかった」と主張してきましたが、今回の反論もその主張を補完しようするものでした。しかし、そのために、国側が今回初めて挙げてきた根拠も、愛知朝鮮高校の学校運営などの問題点を直接的に指摘するのではなく、東京都が都内朝鮮学校への補助金を打ち切る際に根拠とした独自の調査報告書や、他地方の朝鮮学校の負債の問題などをあげつらうものでした(愛知朝鮮高校を無償化対象校として指定すべきであったかどうか論点であるにもかかわらず)。このように、国側の主張は、論理的にも説得力に欠け、強引で乱暴な反論となっていました。

●裁判報告集会の様子●

今回は、口頭弁論で提出された、国側の反論について、弁護団の表明玉弁護士より詳しい解説がありました。今回のような国側の強引な反論の背景には、朝鮮学校に対する社会的偏見に乗じて緻密な議論を

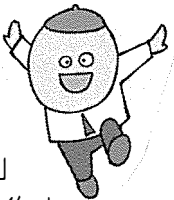


避けているという面がある、「国側が裁判で負けるわけがない」という考えもあるのではないかと、だからこそ、偏見にとらわれずに社会的関心、公正な判断を裁判所・裁判官に訴えていく傍聴運動が何よりも重要だと、強調されました。

■「準備書面集」発刊について■

報告集会の後には、この度、愛知弁護団と無償化ネットワーク愛知が共同で発刊した「準備書面集」のお知らせとその説明がありました。この「準備書面集」とは、愛知裁判の原告側の訴状と準備書面(裁判での主張を書いた文書)の一部をまとめたものです。

植民地期から現在まで、日本における朝鮮・朝鮮人観を背景として、阻められ続けてきた、在日朝戦人や朝鮮学校の歴史がどのようなものであるか、特に近年の歴史修正主義・排外主義運動や「北朝鮮」嫌悪現象とこの高校無償化除外がどのような繋がりがあるか、など歴史的・社会的背景を詳しく主張してきた書面をまとめた内容となります(書面集の収益は裁判のために使われます)。



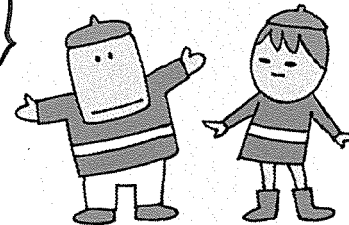
「聞こえないふりに傷ついて かすれる叫びはあてどなく
それでも誰かと歌いたいんだ 一人の声では届かない」

これは、愛知朝高一年生たちが報告集会で披露した合唱「声よ集まれ、歌となれ」の一節です。“声”は存在しないわけでもなければ、叫ばれていないわけでもありません。であればこそ、その“声”に応答し、共に叫ぶこと、それこそが何にも増して必要なことではないでしょうか。

これからも、裁判闘争を通して共に“声”をあげつづけましょう!

次回期日の
お知らせ

傍聴に
いこう!!!



2015年9月14日(月)

第14回口頭弁論

名古屋地方裁判所にて14:00~
16:30に傍聴抽選も切ります!!

